

報告タイトル

中国の対 ASEAN 貿易の新局面: 2015 年以降、とくに米中貿易摩擦の影響を中心に

“A new phase of China’s trade with ASEAN: Focusing on the Impact of US-China Trade Friction”

氏名(所属)

宮島 良明(北海学園大学)

MIYAJIMA Yoshiaki (Hokkai-Gakuen University)

要旨(800 字程度)

本稿は、2000 年以降の中国 ASEAN 貿易の特徴と変化を考察するものである。中国経済の躍進は目覚ましく、東アジア域内外の貿易構造を大きく変化させているが、そのなかで、多くの輸出品目が重複し、競合すると考えられた中国 ASEAN 貿易は比較的安定に拡大してきた。本稿では、この中国 ASEAN 貿易の構造について、品目別データを整理し、貿易特化係数を援用することで「水平貿易」、「垂直貿易」という 2 つの観点から検討を行った。貿易データは、主に UNCTADSTAT を用いた。品目の評価には UNCTAD の独自の区分と SITC(3 桁)を使用した。

その結果、「水平貿易」では電子・電気製品の生産ネットワークが拡大していること、また、「垂直貿易」では中国からの工業製品と ASEAN からの一次産品の貿易が引き続き増加していることがわかった。これらが、中国と ASEAN 両者の安定的な貿易関係を支えてきたことが確認された。さらに、2015 年以降、ベトナムやカンボジアでは、中国から工業製品の原材料を輸入し、加工したのち、最終製品をアメリカへ輸出するという迂回貿易の構造も確認できた。この動きは、米中貿易摩擦や中国の賃金上昇、技術水準の向上などを受けて、これからも加速するものと考えられる。そして、経済安全保障にかかわるサプライチェーンの見直しなども今後の動きとしては重要となろう。これらの観察には、企業の動向とともに、品目の動きを詳細に追いかけていくことが重要と考える。この点については継続的な研究課題としたい。

なお、本稿の基盤となる調査・研究は、科学研究費助成事業・基盤研究(C)(一般)「米中貿易摩擦とコロナショックが東アジア地域の生産ネットワークに与える影響」(21K12434、2021～2023 年、研究代表者:宮島良明)の支援を受けている。